



北高夢ロード通信

第 19 号(2026.7)

解散承認／北高普通科再編／図書館要望

会長 波多野宏之

4 月 25 日の総会で、2027 年 3 月末日をもって本会を解散する旨の提案が、異議なく承認されました。総会返信はがきのご意見などでも、今回の決定についてご理解をいただき、感謝に堪えません。

総会での解散関連のご意見は、p.4 に記しました。解散以後に向けては、本誌第 18 号に記した方向性のもとに進めてまいります。また、本年度事業計画にありますように、可能であれば、ギャラリー・クロージングの集いを開き、会員の皆様や地域の皆様のご協力に感謝する機会を持ちたいと考えております。

こうした中、下関北高校、ひいては地域の将来にとって重要な事案が昨年より浮上しています。本誌前号で報じた下関北高普通科再編計画です。県教委は、本年 3 月、県立高校再編整備計画 後期実施計画（2027 年度～2033 年度）を、ほぼ素案どおり最終決定しました。これを受けて本会では、総会後に“未来デザイン科”（仮称）とは？～下関北高の学科再編を考える～を開催し、「新しい普通科」の意味するものや、先行して実施している他県の事例を紹介した後、参加者から出された意見概要（p.5-6 参照）を下関北高校に提出しました。本会として一つの方向性を主張することはしておりませんが、新しい普通科が単に従来の地域探究授業の延長であっ

てはならず、伝統のある相撲（部）の振興につながるよう、生徒の県外募集、学生寮の設置などによって真に特色ある独自カラーを出し、志願者増加に資することが重要と思われます。

県教委案の検討は、各校で学校運営協議会のもとで成されるところで、本会ではその傍聴を希望しました。しかし、本来公開が原則である協議会ですが、本件については非公開とされたため、学校、協議会長と折衝し、別途臨時協議会を持った結果、夢ロード会員および地域住民が直接意見を述べる機会が与えられました。その経緯については、p.6 に記したとおりです。少なくとも中間報告くらいは公開してほしいと要望しているところです。

本会は解散を目前にしていますが、本に関するサービスは、＜アートの本棚＞で継続して行います。総会では、昨年より実現した、（豊北図書館で借りた）本を市役所豊北総合支所に設置した返却箱に返せるシステムを拡張してほしいとの要望が出されました。滝部以外の他地域住民にとっては不便であり、これを各地区公民館（滝部、阿川、栗野、神玉、田耕、角島）及び豊北生涯学習センターに拡大して設置してほしいとの要望です。6 月 11 日、団体貸出等についての要望も含めて文書で要望書を下関市教育委員会教育長、下関市立中央図書館長、豊北図書館長への連名で提出しております。この結果については、次号で詳細をお知らせできると思います。

＜ギャラリー夢ロード＞第27回展 詩人の肖像 川原一夫彫刻展

6月16日（火）～28日（日）、標記の展示会を開催しました。＜ギャラリー＞での彫刻展は今回が初めてです。川原氏は本会会員ではありませんが、会の創立の頃から、様々な行事に参加され、＜ギャラリー＞のワークショップでは「飛び出す絵本」や「ドールハウス」の制作に講師役を務めていただいていたいました。

今回の展示にはテラコッタの肖像約10点、ダンス像などの小品約10点、それに紙塑によるバレエ群像約20点を出品。テラコッタの焼き色の違い、氏独自の紙塑の技法、あるいは作風の違いにも関心がもたれました。ギャラリートークなどでその説明があったところです。



恒例の下関北高総合文化部の見学（写真上）には生徒9名が参加。人体造形を行う際の実際的な質問や肖像の表情から受ける印象などについての感想などがあり、作品を介して、作家やコレクター等との交流が回を追うごとに深まっていくことを感じさせました。（波多野宏之）

ギャラリートーク（川原一夫氏）を聴いて

川原さんは幼少の頃、吉見で過ごした日々を大変大切にされています。肥後守（ナイフ）でも作った時の思い出が、そのまま時を経て純真無垢な少女像へと刻まれています。自分自身も体が弱かったせいか、いつも弱く控えめな人に心惹かれます。バレリーナの像を造るにあたって、人体の骨格、筋肉を調べて、その動きを自分自身の体で試したそうです。その後スランプに陥り、自分には女性像しか作れないと思っていたところ、若い時に詩人金子光晴に出会い、励まされて握手した記憶が甦り、その肖像を造ったそうです。挑みかかるような迫力があります。手の感触が作り上げたと言っても過言ではありません。以降、宮沢賢治、ランボー、アルトー、セリヌ、クローデルと詩人の魂を持った芸術家の肖像を造り続けました。

川原さんはこれら詩人達の幼少時から老年までを彫刻で追体験しています。芸術家の思想を深く読み込み、共感し、共有し、涙を流しながら制作したように思えます。こうしたプロセスは川原さんの製作方法にも共通するもので、始めの頃は、七輪で一体ずつ焼いていましたが、その後自分で設計図を作り、窯を築きました。何事も一から学んで作り上げていく熱意には感嘆の他ありません。（平田健司）

写真：左端が川原氏



音楽とお話の夕べ

6月19日(金) 市倉栄治

「シャンソン名曲集Ⅱ：詩人の肖像展によ
せて」

6月26日(金) 古屋 優

「ホルスト組曲『惑星』作品32」

今回の音楽とお話の夕べは、上記のようなメ
ニューで開催されました。

フォーラム杜
屋主宰の市倉さ
んは、昨年11月
に引き続いての
シャンソン名曲
集。開催中の「詩
人の肖像川原一



夫彫刻展」の作品を彩る印象的な曲を聴かせて
くれました。「タイトルに『詩人』を含む名曲」
「“とこしえの愛”を表現した名作の饗宴」「“人
生の糧”となる珠玉の名曲”などの表題に沿った
全13曲の名曲、名唱が紹介されました。彫刻展
の主演川原一夫氏のリクエスト「イザベル」も選
曲されており、歌手のシャルル・アズナブールの
圧倒的な表現力に衝撃を受けた若き日の思い出
を川原氏が話されました。さすが芸術家の感性
は違います。

まさにシャンソンは世界の文化遺産です。私
自身普段はシャンソンを聴くことはありません
が、こうして市倉さんのお話に耳を傾けながら
じっくり聴くと、シャンソンもいいもんだなと
なんだか得した気分になりました。市倉さんの
豊富な知識に基づいた選曲と多彩なレコードコ
レクションにはいつも脱帽です。

組曲「惑星」を全曲通してじっくり聴くのはた
ぶん初めてだと思います。①火星（戦争の神）②
金星（平和の神）③水星（翼のある使いの神）④
木星（快樂の神）⑤土星（老年の神）⑥天王星（魔
術の神）⑦海王星（神秘の神）の7つの惑星をと
りあげ、オーケストラで壮大かつ神秘的・幻想的

に描かれた組曲です。このうちジュピター（木星）
は、シンガ
ーソング
ライター
の平原綾
香の熱唱
でよく知
られてい



ます。参加者の皆様もこの曲だけは聞き覚えが
あるようでした。最初に古屋さんが、「まるで映
画音楽のようです」といった意味がよくわかり
ました。「～の神」の「～」の情景やイメージ・
心象風景を自分なりに思い描くことができたの
です。でもホルスト自身は、この組曲は標題音楽
（音楽以外の想念や心象風景を聞き手に喚起さ
せることを意図した器楽曲）ではないと言っ
ています。

ところで、単純な私は、なぜ地球がないのか疑
問に思って調べたところ、惑星を題材にしては
いるが、『天文学』ではなく『占星術』から着想
を得て書かれたものだからそうです。（白岡）

音楽とお話の夕べ。交流会第2回

本年は、花見もかねて昨年より早めの4月6
日（月）に第2回交流会を企画しました。場所
は昨年と同じ豊北歴史民俗資料館前の公園。参
加者も昨年より多い計19名となり、楽しいひ
と時を過ごしました。準備に当たって、会場づく
りなどに参加者有志のご協力があり感謝してい
ます。（古屋優）



2026 年度 総会報告

4 月 25 日（土）開催。議長に永富輝久氏を選任。出席 14 名、委任状 23 名、正会員 49 名の過半数で成立。事業報告、決算報告、監査報告のあと、本会の解散について、高齢化による役員の確保困難、ギャラリーの利用が今年度まで、を主な理由として提案され、2027 年 3 月末をもって解散することを全会一致で承認。事業計画、予算案を承認。次の意見と回答があった：図書返却箱を総合支所 2F から 1F 入口へ、また各公民館で返却可能にすること、解散総会の必要性については、決算は会報で報告し、残金が出た場合、北高同窓会へ寄付すること、他に会長への美術史関連解説行事開催希望があった。

（白岡勝典理事による総会議事録の摘要）

2025 年度事業報告

（1）下関北高に通学する生徒への傘貸与

事業を継続し 77 本を追加した（累計 1,100 本）。

（2）＜アートの本棚＞による図書の閲覧貸出と読書会等の開催

＜アートの本棚＞（旧笹尾商店）の公開を継続し、閲覧貸出サービスを行った。読書週間に下関北高図書室で＜アートの本棚＞展示（10.27～11.9）を開催し、『アートの本棚通信』第 11 号を刊行した。読書会「カフェ・リーブル」を 4 回開催したほか、新たに「映像資料で学ぶ会」を開始し、3 回開催した。下関市立図書館の団体貸出登録団体となり、希望者は原則月 1 回、＜アートの本棚＞での借り受け・返却を可能とし、8 回実施した。

（3）＜ギャラリー夢ロード＞による美術作品および音楽鑑賞機会の提供

展示会を 3 回開催し、第 25 回展でギャラリー・トーク、ワークショップを各 1 回開催した。第 26 回展はギャラリーでの展示終了後、豊北生涯学習センターにへ巡回して鑑賞機会の増加を図った。各展示で金曜日に＜音楽とお話しのタベ＞を開催した（計 6 回）ほか、初めての試みとして、参加者との交流会を実施した（4.12 参加者 16 名）。第 24 回展「＜カフェ・リーブルの本棚＞展」

（5.20～6.1 入場者 107 名）

第 25 回展「後藤愛彦絵画展」（11.4～16 入場者 135 名）

第 26 回展「北高成果展 2026」（1.27～2.8 入場者 130 名）

（4）地域の歴史・民俗・自然環境等の調査・研究を通じた学習支援活動

第 9 回栗野川流域ホタル観察会を開催した（6.6 参加者 8 名）。豊北中学校で数学授業をサポートした（月 4 回）。

（5）会報『北高夢ロード通信』の刊行

第 17 号（2025.7.20）、第 18 号（2026.3.20）を刊行した。

（6）下関北高との協同

読書週間＜アートの本棚＞展示（(2)参照）を実施した。県外在住会員を対象に『やまぐち応援寄附金』（ふるさと納税）の広報を仲介し下関北高への支援を呼びかけた。

（7）地域の関係機関・団体との連携

下関北高校同窓会等と連携し、下関北高校新入生祝意幕を掲示した（3.24～4.21）

下関市生涯学習センターへ第 26 回展を巡回した。（(3)参照）

しものせき市民活動センターの登録団体活動紹介パネル展に参加した。（9.14～21, 10.17～24）

（8）豊北の公共図書館サービス改善への取り組み

下関市立豊北図書館の利便性向上のため、＜アートの本棚＞で下関市立図書館の登録団体として団体貸出の借り受け・返却サービスを開始したほか、随時、資料購入等について提言している。（(2)参照）

（9）ホームページとリモート会議システムの運用

ホームページを継続して運用した。

（10）総会、総会後行事、役員会（年 5 回程度）の開催

総会、総会後行事（紙芝居「北浦蒙古襲来絵図」を実施した（4.26）。役員会は 3 回開催した（4.5, 6.21, 2.14）。

2026 年度事業計画

（1）下関北高に通学する生徒への傘貸与

事業を継続する。

（2）＜アートの本棚＞による図書の閲覧貸出と図書展・読書会等の開催

＜アートの本棚＞（旧笹尾商店）の公開を継続

し、閲覧貸出サービスを行う。読書会「カフェ・リーブル」を隔月に、「映像資料で学ぶ会」を3カ月に1回開催する。読書週間（10.27～11.9）を開催し、『アートの本棚通信』第12号を刊行する。下関市立図書館の団体貸出のサービスを継続する。

(3) <ギャラリー夢ロード>による美術作品およびの音楽鑑賞機会の提供

展示会を3回開催し、会期中にギャラリー・トーク、<音楽とお話しのタベ>等を実施する。<音楽とお話しのタベ>交流会（第2回）を開催する。

第27回展 川原一夫作品展（仮称）

第28回展 小田善郎作品展（仮称）

第29回展 藤田莞爾作品展（仮称）

<ギャラリー夢ロード>クロージングの集い開催の可能性を追求する。

(4) 地域の歴史・民俗・自然環境等の調査・研究を通じた学習支援活動

第10回粟野川流域ホタル観察会を開催する。豊北中学校で数学授業をサポートする（週2回）。朗読劇「角島灯台物語」の活動に協力し、関連の紙芝居による活動を継続する。

(5) 会報『北高夢ロード通信』の刊行

第19、20号を刊行する（7、3月）。

(6) 下関北高との協同

学校の魅了を増進するための方策について、広く論議する場を設ける。文化祭への参入のほか、読書週間<アートの本棚>展示（(2)参照）を行う。県外在住会員を対象に『やまぐち応援寄附金』（ふるさと納税）の広報を仲介し、下関北高への支援を呼びかける。

(7) 地域の関係機関・団体との連携

下関北高校同窓会等と連携し、下関北高校新入生祝意幕を掲示する（3月～4月）
滝部公民館祭りに参加する。しものせき市民活動センターの登録団体活動紹介パネル展に参加する。

(8) 豊北の公共図書館サービス改善への取り組み

下関市立豊北図書館の利便性向上のため、実態調査その他必要な活動を行う。

下関市立図書館の団体貸出登録団体として活動を継続する（(2)参照）。

(9) ホームページの運用

(10) 総会、総会後行事、理事会（年4回程度）の開催

“未来デザイン科”（仮称）とは？～ 下関北高の学科再編を考える～ 記録概要

2026年4月25日 於：滝部公民館

主催：北高夢ロード実行委員会

共催：下関北高等学校同窓会

出席者：19名

司会より以下を提示：

- ・「**県立高校再編整備計画後期実施計画** 令和9年度～令和15年度」（山口県教育委員会 令和8年3月）の下関北高関連部分について、再編の方向性
- ・計画全体の素案発表（令和7年10月）から地域説明会、パブリック・コメントの募集と概要公表（令和7年3月）など成案に至るまでの経緯
- ・素案と成案との違い [下関北高に関係ありそうな内容としては]「新しい時代に対応した学校づくりに向けて」の項目が追加され、「学校間連携による多様な学びの確保等について検討」とある。
- ・豊北高校・下関北高の定員と入学者数の推移（2016～2026）
2016年、豊北高校47名～2018年、下関北高73名（定員105名）～、2026年29名（定員80名）
- ・『**普通教育を主とする学科**』の弾力化：**普通科改革の意義・概要**」（令和6年5月27日 第12回高等学校教育の在り方ワーキンググループ資料3）の主要部分（「学際領域学科」、「地域社会学科」、「その他普通科」の3種類[選択肢]があることなど）の説明、他県での種類別実施状況の紹介
- ・事例紹介
事例1 鹿児島県立種ヶ島中央高校（電話取材による）概要 種ヶ島は、人口、面積ともほぼ旧豊浦郡4町を併せたものと同程度。80名定員の普通科を令和6年より定員40名の普通科と定員40名のミライデザイン科（「その他普通科」）に分けた。ミライデザイン科は、デザイン思考とデジタル技術を身に着けたデジタル人材の育成を目的とする。合格者数は、（平成8年、普通科16名 及び 未来デザイン科12名と、従来と比べ横ばいか下落（なお、他に従来より情報処理科（定員40名）がある）。
事例2 宮崎県立飯野高校（ネット取材による）概要 えびの市在。普通科（定員80名 総合コ

ース、探求コース）を令和 8 年より**未来探求科**（「地域社会学科」（定員 80 名））に改編。**未来探求科**は、総合的な探究の時間をカリキュラムの軸とする。入学者数は、令和 7 年、普通科 59 名 → 令和 8 年、**みらい探求科** 56 名とやや減（なお、他に従来より生活文化科（定員 40 名）がある）。

これらの事例は、普通科改革によっても入学者数の増加を容易に実現しえないことを示す。

フロアとの意見交換：

- 地域説明会に出席し、パブリック・コメントも出した。県教委によれば、各高校とも高校を中心に今後検討して内容を詰めていくことになる。実際には、学校運営協議会を中心に、ということだろう。北高の学校運営協議会はかつて傍聴したことがあるが、本音の論議をしておらず低調に感じられた。一方、豊北高校・響高校統合の際を含めこれまで同窓会の関わりは希薄であり、動きも遅かった。今後は力を入れて関わってもらいたい（県教委も同窓会には一目置いている）。改編については、観光関連が学べる学科とすること、全国募集を含め、県内唯一と言ってもいい相撲部のでこ入れを兼ねて相撲コースの設置を。熊本県立高森高校では令和 5 年、マンガ学科を設置し、高森町も支援して寮も設置しており、参考になる。なお、JR の小串止まりを滝部まで延伸するなどのインフラ整備も必要。
 - 相撲は、コメ作りをその基礎にもつ。地域の農業・漁業を学びながら相撲の力を育てたい。他の県では農協が相撲部を支援しているところもある。これにモンゴルなどからの留学生が加わるような仕組みができないか。この度の改編では、これまでやってきた地域探究授業をただ延長展開すればよい、ということではあてはまらない。理科で言えば、化学、生物学など地域特性を踏まえた教養学科的な理科を教える先生が必要である。自分は、他県の某農業高校と個人的な関係があるが、下関北高が真に改革に取り組まなければ、自分は北高を見捨て某高校の支援に余生をかけることになるだろう、とさえ思っている。
 - 孫が北高に通って就職組に在籍している。美容、農業、建設業など地元の産業と連携した授業が行われ、（職業科ではないが）何らかの資格が取れるような新しい学科になるよう希望する。
 - 本年度の北高入学者が 29 人と聞いて衝撃を受けている。中学卒業生が少なくなっていることが背景にあらう。現在でも豊北歴史民俗資料館や人類学ミュージアムなどの機関と北高が連携していると聞いており、生徒が地域の人々と一緒に人生の選択について考えられるような仕組みの学科を期待する。
 - 20 年前から教育における「開発主義」と「注入主義」が論じられてきた。「課題開発学習」対「詰め込み教育」である。課題解決型にシフトしつつあるが、課題をどう設定するかが大事で、これが容易でない。「地域」からは課題を見つけやすいが、評価がむづかしい。
 - 県教委は、「地域社会学科」の枠組みで改編を進めようとしているように思えるが、3 種類を公平にみて論議すべきだ。パブリック・コメントにも書いたことだが、私見として、教育方法や教材の革新を目指して（公益財団法人）放送番組センター（放送ライブラリー）のもつ数万点の NHK+ 民放テレビ・ラジオ番組映像（音響）資料の活用による、「その他の普通科」を提案したい。10 年以上前から上智大学、駿河台大学、長崎純心女子大学（現長崎純心大学）等、次いで、女子美術大学付属高校等、現在は中学校でもネット経由（ストリーミング）によって、教室で同ライブラリーの資料を視聴できる。山口県ではまだ実施例がない。生徒募集も全県一律で県内に限ることなく、高校の実情に応じて県外からも募集できるようにすべきだ。
 - 自身は農業高校に進学した。豊北高校の前身は、滝部女子農業学校だった。地域には農業、畜産業が多く、JA などの協力も得て、こうした面で特色のある「地域社会学科」になればよいと思う。
 - 現在の北高は敷居が高い。高校側も地域からモノ申されることに警戒気味だ。気軽に校内に入り話がするような雰囲気的高校になって欲しい。
 - 明治以降西洋の文化が入ってきて社会、個人、資本主義などの考えが導入され、すべてが金にならないとダメという風な国になってしまった。この地域では田んぼと畑の緑がベースとなっており、それさえあれば食いはぐれない。そこを基本にした教育が重要だ。
 - 全国募集などをしている島根県立隠岐島前高校の事例は大変参考になる。以上
- この記録は、5 月 18 日、下関北高へ提出され、さらに、直接意見を述べる機会が、6 月 24 日、臨時学校運営協議会としてもたれ、夢ロード会員、地域住民計 15 名が出席しました。

＜カフェ・リーブル＞第 14, 15 回に参加して 数字と数字のつく本

この2回だけで言いますと、参加者は、それぞれ 12 名と 6 名。人別では、女性 6 名、男性 7 名でした。紹介された本の中で最も面白いと思ったのは、第 14 回の吉田洋一著『零の発見：数学の生ひ立ち』です。0、1、2、3・・・と数があります。この回に紹介された黒柳桂子著『めざせムショランミツ星：刑務所栄養士、今日も受刑者とクサクないメシ作ります』や、第 15 回の青木富貴子著『731』は数字だけのタイトルですが、細菌による人体実験を行った 731 部隊をめぐるドキュメンタリーで興味深いものでした。

私は『時刻表』が大好きです。数字がたくさん出てきて、頭の体操になります。松本清張などの推理小説にもよく登場しますね。

こうした数字・数学にまつわるものや、美術、思想、仏教、小説、ドキュメンタリー、郷土史、児童書・・・と参加者の関心もさまざまで、予期しない多くの本に出会えます。

私は、参加者の中では一番の若輩ですから、経験豊富な皆さんから刺激を受けています。スマホの普及で紙の本を読む人が少なくなっています。私はスマホを持ちませんし、紙の本の匂いや手触りが大好きです。自分の年齢の数を実感するように、読んだ本の数も実感できるように思います。 (中山見敬)



映像資料で学ぶ会 第 4 回

4 月 19 日（日）の第 4 回は、「大人は判ってくれない」（フランソワ・トリュフォー監督 1959 年 DVD）を視聴しました。監督は、ゴダールと並ぶヌーヴェル・ヴァーグの大御所。参加者 4 名の内、2 名はこの映画は今回初めて観るとのことでした。自分が親になって改めてこの映画を見てから思う事、それは子供に対する接し方です。子どもと冷静に対話できるような心の余裕を持ちたいと思いました。大人の事情は子供の成長に大きく影響を与え、大人の心に余裕がないと、子どもは寂しくて嘘をつく。アントワヌが少年鑑別所に入り、海辺に向かって走るシーン、アントワヌのはじまりを期待しました。 (福嶋保子)

映像資料で学ぶ会 第 5 回

7 月 5 日（日）の第 5 回は、時代を少し飛ばして 1981 年の作品「ディーバ」（ジャン＝ジャック・ベネックス監督）。女神に恋してその歌声を無断録音した青年のカセットテープ。犯罪組織の内幕を暴露したテープと疑われ・・・原作はフランスの人気作家デラコルタ。活劇ながら同監督の「ベティ・ブルー」（1986）にもつながる、幻想的な雰囲気を出しつつ脇役陣の存在や色彩感覚も新鮮でした。 (波多野宏之)

ハングル本、韓国関係図書の貸出

5 月から 6 月末まで、ハングルによる漫画やレシピ本、日本語による朝鮮半島の歴史、韓国の文化などに関連した図書 31 冊が、地域住民のご厚意で、貸出用として＜アートの本棚＞に置かれました。成人の利用は数件あったものの、残念ながら、授業でハングルを選択する北高生の利用は今のところありません。9 月以降も本の入れ替えをしてサービスを継続します。

第10回 栗野川流域ホタル観察会

5月29日（金）に下関北高正門前の草場に夕方7時45分集合して神田川周辺での観察会をはじめました。

観察会を始める前の説明会の冒頭に「今回で北高夢ロード主催のホタル観察会は最後になります。これまで参加いただいた下関北高、豊北中、豊北小の先生方、生徒のみなさん、北高ロードのメンバーの方々に感謝します。」と申し上げました。下関北高の校長先生、先生方の参加もいただき、当初は15名、終わりが近隣にお住まいの方も来られて最終16名の参加となりました。大方は神田川の上流に、一部の方は栗野川の方に観察に行きました。29日の前の2週間、例年にない高温の日々でしたので、ホタルの出現はどうなっているか心配しましたが、昨年と同じくらいの出現でした。最後に来られた近隣の方の話では、一昨日が最盛期で昨日は余りで出なかった。今日はますますです、ということでした。

神田川と滑川の合流域は生態系の研究の最適な場所です。今後下関北高の生徒のみなさんがこの場をホタル観察も含めて生態系の研究の場として、小中の児童、生徒のみなさんをリードしてもらうことを期待しています。

冒頭の説明の一部に、ホタルの発光の化学的メカニズムのきわめて簡単な図を表示しておきました。ホタルの腹部に「ルシフェリン」という発光物質と、それを反応させる酵素「ルシフェラーゼ」があります。酵素反応こそ、生命を支える不思議な機能です。酵素反応を高校時代のテーマとする生徒さんが起こされることも期待しています。

（岡崎）



下関北高新入生祝意幕を掲示

3月23日（月）～4月20日（月）、恒例により下関北高同窓会等と共同で、滝部駅、下関市役所豊北総合支所など通学路4か所に掲示しました。



案山子？ 豊北小学校の通学路に 年 2～3 回、装いを変えて現れる——。5年前から西楽寺（滝部中村）の皆さんが総出で企画・作成、近所の方も古着の提供などで協力されているそうです。

<ギャラリー夢ロード>次回第28回展 開催予定

小田善郎作品展（仮称）

小田氏は美祢市在住の画家。「ありす」とその友達を描いたアクリル絵画作品を展示する予定です。

11月17日（火）～29日（日）

2026年度会費の納入について

今回で最後の会費となります。未納の方は本誌同封の振替用紙でお振り込み願います。

北高夢ロード通信 第19号（年2回刊）

2026年7月20日発行

編集：会報編集委員会（戸田・穂枝・白岡・村上）

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel：083-782-0084

ホームページ：http://yumeroad.org

E-mail：kitakoyumeroad@gmail.com